木村里風子　選

特選

父の日に安いハンカチプレゼント

廿日市市立佐方小学校五年　山下　瑛都

【評】父の日にハンカチをプレゼントしたが父には安いとは言わない。子の父を親う気持が一枚のハンカチにある。

告白まえ螺旋階段汗にじむ

県立呉商業高等学校一年　西岡　丈志

【評】心理的である。何を告白するのか、その気持が分かる。

釣り終えて海面に映る夕日かな

県立尾道北高等学校一年　上本　周和

【評】釣りに満足している。釣果よりも、自然の美しさにも満足している。たのしい一日の終り。

俳　句　部　門

入選

さくら散る別れが近づく帰り道　県立呉商業高等学校三年　西本　百花

紺碧の二つ並んだラムネ瓶　県立尾道北高等学校一年　菅原こはる

学び舎へ胸が高鳴る春一番　東広島市立豊栄中学校三年　加藤　徹哉

狼の毛皮のごとく闇夜かな　東広島市立向陽中学校三年　加藤　蒼唯

赤とんぼ夕日といっしょにおよいでる　大竹市立大竹小学校四年　佐々木翠柚

あめんぼは水にうかぶよ上手にね　廿日市市立佐方小学校二年　かしまよしなり

田植えしてどろんこになりわらい合う　廿日市市立佐方小学校五年　水津　咲花

海にはね小さい魚泳いでる　海田町立海田小学校三年　藤原　明咲

夕焼けの空の色はほほの色　海田町立海田小学校五年　今田　啓翔

夜が明けて庭の方から鳥の声　海田町立海田小学校五年　岩口　小春

夏休みじいちゃんとあえてうれしいな　海田町立海田小学校六年　俵　絆理

風りんの音で静かにすごす夜　坂町立横浜小学校六年　高橋　優空

赤とんぼなんで赤なのふしぎだね　府中町立府中小学校二年　中林　知輝

風りんに風がないから手でならす　福山市立千田小学校三年　田邊　智稀

水鉄砲相手の心ねらいうち　廿日市市立佐方小学校五年　中野　昇馬

桜貝自然が生んだ美しさ　広島市立中山小学校六年　香取　碧

ただいまとドアを開けると蚊が入る　大竹市立大竹小学校六年　野中　勇己

太陽が雲海の中かくれんぼ　府中市立上下北小学校五年　池田　雪乃

木村里風子　選

特選

麦秋やふるさと近き橋渡る

呉市　西原　久子

【評】麦秋とは、麦の取り入れどきであり初夏のころにふるさとに向かう。なつかしい橋であり渡ると故郷である。

山頭火真似て旅立つ夏休み

広島市　寺澤　紀子

【評】山頭火は理由あって放浪の俳人。自由気儘な旅をした。その気分で作者は旅に出た。

草笛の中に亡き友山河あり

広島市　大林　實

【評】草笛を吹く、亡き友と過した故郷の山河は目の前にあるのである。友の姿が目の前の山河と共にある。

代田掻く一筆書きのように掻く

福山市　瀬尾ちとみ

【評】代田を掻く、田植え前の準備であるが一筆書きとは言い得て妙。作業をしている姿が見える。

釣り人へ釣り好きの寄り秋日和

福山市　田村祐巳子

【評】釣り好きの人の心理が如実に出ている。釣りをしていると寄って声をかけたくなるのである。

入選

散華とは仏教用語敗戦忌　福山市　肥後　弘子

主なき家の風鈴澄み渡り　江田島市　盛中千代子

山からの水たつぷりと植田かな　広島市　松田　郁子

山積みの蛸壺の待つ帰省かな　安芸郡府中町　大久保信子

うら返し使ふ雑布夕かなかな　広島市　川手　和枝

筆立に使はぬ絵筆水中花　福山市　池田　律子

峡にまた一つともしび消えて秋　三次市　林　勝子

白寿たる傷痍軍人終戦日　広島市　松尾　信彦

蝌蚪の世も一期一会のありにけり　福山市　甲斐　照美

曼珠沙華休耕田の畦を染め　広島市　國本　和子

桜まじ茶室の草履裏返る　廿日市市　辻　惠風

紫陽花をひとこと誉めて登校児　広島市　村本クニ子

夏草の荒田に山羊の親子連　福山市　田口　公子

春暁や寄せ来る波の大鳥居　広島市　種村　明雄

子燕の喉は真っ黒蔵座敷　福山市　林　万理子

噴水やをさなき嘘にだまさるる　広島市　熊谷　純

船泊る瀬戸内のどかに夕映えり　広島市　山本　憲治

盆踊り囃を聞けば手が動く　江田島市　山本　光

線香花火八つもならぶ膝小僧　広島市　星加　鷹彦

初春や百寿の母の薄化粧　福山市　宮本　昭信